令和５年７月 15 日
第１回総合計画審議会　資料３－１

令和４年度　平塚市市民意識調査結果

市民の居住意向、生活満足度、まちづくりに対する重要度や満足度に対する意識を調査するとともに、平塚市総合計画に基づくまちづくりに対する評価を把握し、今後の基礎資料として活用するために実施しました。

１　調査方法

（１）調査対象　　住民基本台帳より無作為抽出した市内在住の満 16 歳以上の男女 3,000 人
（２）調査方法　　郵送配布、郵送回収、e-kanagawa 電子申請での回答
（３）調査期間　　令和４年９月２日（金）～９月 30 日（金）
（４）有効回収率　34.0%（1,019 件）

２　調査結果のポイント

- 居住意向は約９割（89.8%）と平成 30 年度の前回調査から 3.3 ポイント上昇しました。
- 生活の満足度において満足している人の割合が 73.3%と前回調査から 2.2 ポイント上昇しました。
- 平塚市総合計画（平成 28 年度から令和５年度）に基づくまちづくりについて、前々回（平成 28 年度）調査から今回（令和４年度）調査にかけて、満足度が上昇した項目は、30 項目中 29 項目となりました。

３　調査結果の考察

「定住意向・生活満足度」
- 本市への定住意向は 89.8%と前回調査から 3.3 ポイント上昇しており、生活の満足度においても満足している人の割合が 73.3%と前回調査から 2.2 ポイント上昇している。
- 本市の魅力や誇りとして感じるものは「大きな規模の公園」が最も多く、次いで「災害・犯罪が少なく、安心して生活できる環境（前回調査４位）」が、前回調査から 4.3 ポイント上昇している。

「デジタル」
- ＳＮＳの利用が、幅広い世代に浸透している。また、内閣府が実施した「満足度・生活の質に関する調査結果報告書 2022」と同様に、ＳＮＳの利用頻度やＳＮＳ上の友人数が多くなると、生活満足度や社会とのつながりに対する満足度が上昇している。

「脱炭素」
- 環境分野に対する重要であるとの回答割合が高くなっており、本市でも「ゼロカーボンシティ」の実現を宣言していることから、脱炭素に係る取組を加速させる必要がある。

「少子化対策」
- 学校教育、子育て支援に対する重要であるとの回答割合が高い傾向があることから、出産・育児に関する経済的支援、小・中学校の教育環境の充実、子どもの貧困に対する支援などの検討が求められている。また、雇用の確保と労働環境に対する満足度が低くなっていることから、将来に不安を感じることのない安定した生活基盤に向けた雇用の確保や学び直しによる技術の習得に加え、働きやすい環境づくりに向けた知識・理解の促進などの取組をさらに充実する必要がある。

「産業」
- 産業分野は、市民の関わりが薄く景気動向の影響を受けることもあり、全項目において満足（「十分満足」と「満足」の合算）と回答した割合が、不満足（「あまり満足していない」と「満足していない」の合算）と回答した割合を下回っている。産業分野に対しては、最も多くの自由意見が寄せられており、本市の特徴である集積した製造業の発展に向けた方策、駅周辺における民間の投資意欲の向上やエリアマネジメントの仕組みづくりについて、検討していく必要がある。

「安心・安全」
- 災害に強いまちづくりに対する重要度が高く、満足度が低い。また、コミュニティ活動の促進に対する重要度が低い。災害に強いまちづくりは、自治会等におけるコミュニティ活動の重要性の理解や、多くの住民参加と活動継続が不可欠である。地域での協力・信頼関係を再構築するため、コロナ危機で自粛せざるを得なかったコミュニティ活動が活発になるよう後押しする必要がある。

４　調査結果の概要

（１）本市への居住意向等

- 約９割（89.8%）の市民が居住意向を持ち、その理由は、「温暖な気候や自然環境」が最も多い【P.12～16】
- 移転意向の理由には、「通勤・通学」上の理由が最も多い【P.17～19】
- 本市の魅力や誇りとして感じるものは「大きな規模の公園」が最も多く、次いで「災害・犯罪が少なく、安心して生活できる環境」【P.20～23】

（２）生活の満足感や心配ごと

- ７割以上の市民が現在の生活に満足している【P.24、25】
- ６割以上の市民が社会とのつながりに満足している【P.26、27】
- ５割以上の市民がＳＮＳを「ほぼ毎日」利用【P.28、29】
- 約５割（48.0%）の市民がＳＮＳ上の友人数を「１～19 人」と回答【P.30、31】

（３）まちづくりの状況（平塚市総合計画に掲げる施策への重要度と満足度）【P.32～54】

ア　分野別施策１～４

- ８割の項目（４分野、24 項目）で前回調査から満足度が上昇した【P.54】
- 分野④（活力とにぎわいのあるまちづくり）は、他分野に比べ満足度が低い【P.50】

イ　重点施策Ⅰ～Ⅳ

- 全ての重点施策で、「重要ではない」の割合は、５%以下【P.55、56】
- 重点Ⅰ（強みを活かしたしごとづくり）は、他の重点施策に比べ重要度が低い【P.55、56】

※　市民意識調査の詳細資料を御覧いただく際に、要点となるページを抽出しました。
同封した「令和４年度平塚市市民意識調査結果報告書」を御覧の際に、参考にしてください。